

2 ClientManager の機能概要

ClientManagerが提供する機能について、概要を説明します。

2.1 統合ビューアとの連携

ClientManagerは統合ビューアとの連携機能として、以下の機能を提供します。

(1) クライアントPCの自動発見

クライアントPCを自動的に検出し、オペレーションウィンドウのマップにクライアントPCのアイコンを登録します。「13.1.1クライアントPCの自動発見」を参照してください。

(2) オペレーションウィンドウからのCMデータビューアの起動

オペレーションウィンドウからCMデータビューアを起動します。「13.1.2オペレーションウィンドウからのCMデータビューアの起動」を参照してください。

(3) アラートビューアからのCMデータビューアの起動

アラートビューアからCMデータビューアを起動します。「13.1.3アラートビューアからのCMデータビューアの起動」を参照してください。

(4) リモート制御 – WinShareの起動

オペレーションウィンドウからWinShareを起動します。

2.2 構成管理

ClientManagerは構成管理機能として、以下の機能を提供します。

(1) クライアントPCの構成情報の収集、格納、表示機能

クライアントPCの構成情報を収集し、マネージャのデータベースに格納し、CMデータビューアまたはCM管理ツールを使って情報を参照します。構成情報の内容については「6 CMデータビューア」を参照してください。

(2) クライアントPCの構成情報の検索、表示機能

CM管理ツールを用いて、データベースに格納されているクライアントPCの構成情報を対象として条件を指定した検索を実行し、結果を表示します。「7 CM管理ツール」を参照してください。

(3) クライアントPCの性能情報の参照機能

CMデータビューアを用いて、クライアントPCの性能情報（CPU、メモリ、HDの使用率）をリアルタイムに参照します。性能情報はグラフ表示することも可能です。「6 CMデータビューア」を参照してください。

(4) ユーザ定義情報の設定、収集機能

ユーザ独自の情報をユーザ定義情報として設定し、クライアントユーザに値を入力させ、その情報を構成情報の一部として収集、格納、表示します。「13.2.4ユーザ定義情報の設定」を参照してください。

(5) 稼働情報の表示機能

クライアントPCの稼働情報（稼働率、稼働時間）を表示します。「13.2.4ユーザ定義情報の設定」を参照してください。

2.3 障害管理

ClientManagerは障害管理機能として、以下の機能を提供します。

(1) しきい値を設定し、クライアント性能（CPU、メモリ、HD使用率）の異常検出

CMデータビューア、CM管理ツールを用いて、クライアントPCに対し、しきい値を設定し、クライアント性能の異常を通知します。しきい値の設定については「6 CMデータビューア」、「7 CM管理ツール」、「14.6 性能監視」を参照してください。

(2) クライアントPCの死活監視

マネージャマシンから各クライアントPCに対して定期的にSNMPのパケットを送信することによりクライアントPCの死活を監視します。「14.3 死活監視」を参照してください。

(3) クライアントNTイベントの通知

クライアントPC（Windows NTの場合）のNTイベントをマネージャに通知します。「5.3 アラートマネージャ(設定ツール)」を参照してください。

(4) クライアントHW障害の検出

クライアントPCの以下のハードウェア障害を検出し、マネージャに通知します。「4.5.2 障害監視設定および通報設定」を参照してください。

- ディスク(S.M.A.R.T)、温度、電圧、ファン、プリンタ、シャーシ開閉、ECCメモリ

(5) OFF state Alert機能

電源OFF状態のクライアントPCからの以下の障害通知を受信する機能を提供します。

- シャーシの開閉、LANケーブル抜け、CPU抜け
- OSのハングアップ(OFF state Alert II対応コンピュータのみ)

2.4 リモート制御

ClientManagerはリモート制御機能として、以下の機能を提供します。

(1) リモート操作機能

マネージャのCRT上にクライアントPCの画面イメージを表示し、クライアントPCのマウス、キーボードの操作をマネージャマシン/GUIマシンから行います。「10 WinShare」を参照してください。

(2) リモート電源制御機能

マネージャマシン/GUIマシンからクライアントPCの電源の投入、電源断またはOSシャットダウン、OSのリブートを行います。。「6.2.6 電源メニュー」、および「7.4.8 電源メニュー」を参照してください。

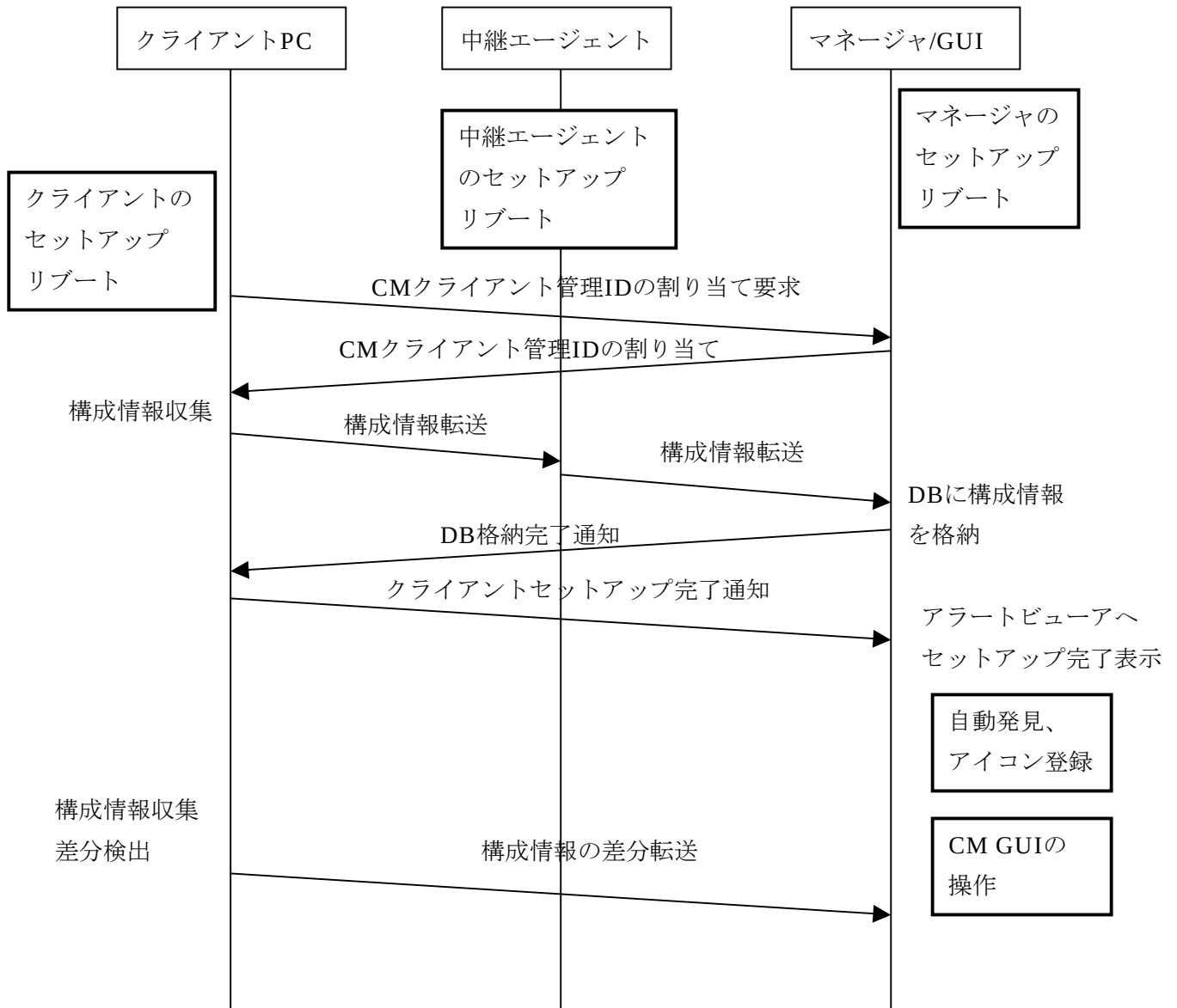
また、電源制御コマンドにより ESMPRO/JMSSのスケキューリング機能を利用してクライアントPCの電源制御をスケジュールリングできます。「13.2 電源制御コマンド」を参照してください。

(3) NETINST

Windows NTのドメインへのログオンを利用して、CMクライアントを自動的にインストールします。「4.10 ネットワークインストール」を参照してください。

2.5 ClientManager の処理の流れ

ClientManagerの運用手順の大まかな処理の流れを下図に示します。太い四角の中が、ユーザが操作する項目で、それ以外はCMのコンポーネントが行う処理です。



1. ユーザは、CMマネージャ、CM中継エージェント、CMクライアントの順にセットアップを行います。
2. CMクライアントのセットアップが終わりOSのリブートを行うと、クライアントPCに対してCMクライアント管理IDの割り当てが行われ、その後、クライアントPCにおいて構成情報が収集され、マネージャマシンに転送されます。すべてのクライアントPCから構成情報が転送されたことを確認するには、アラートビューアにCMクライアントセットアップ完了通知が表示されたかどうか確認するか、CM管理ツールを用い、クライアントPCの一覧を表示して確認してください。クライアントPCの一覧表示については「7 CM管理ツール」を参照してください。
3. すべてのクライアントPCの構成情報が収集されたことが確認できたら、オペレーションウィンドウからクライアントPCの自動発見を行い、オペレーションウィンドウのマップにクライアントPCのアイコンを登録します。クライアントPCの自動発見の手順については「14.1.1クライアントPCの自動発見」を参照してください。
4. 中継エージェントが設定されている場合には中継処理が行われ、中継エージェントが設定されていない場合にはクライアントPCからマネージャに直接構成情報の差分の転送が行われます。